

中学校
外国語

子どもたちの英語力を育成する授業づくり



今年度も、全ての中・義務教育学校で英語の授業参観をさせていただき、ありがとうございました。各学校において、子どもたちの実態に応じた言語活動（Small Talkや領域統合等）を組み入れながら、積極的に英語を使用して授業をする先生方の姿が、多く見られました。子どもたちの英語学習に対する意欲向上や授業改善推進のために実施している外部試験（英検IBA）の結果からも、先生方の授業改善により「生徒全体の英語力が順調に育成されている」ということが明らかになっています。

今号では、子どもたちの英語力をさらに育成するための、授業づくりのポイントについて提案します。

使いながら英語を身に付けられる
授業づくり（例）

0分	あいさつ
	めあての提示
	常活動（例） Small Talk あるテーマについて ペアで話し合う ↓ 中間指導 ↓ Small Talk ペアを代えて、 もう一度話し合う
	教師モデルの提示
	言語活動 ↓ 中間指導 言語面での正確さや 内容面での適切さの 指導 ↓ 言語活動
	まとめ
50分	振り返り

授業づくりのポイント

「英語を使って何ができるようになるか」を明確に！

* CAN-DOリスト形式の目標及び評価規準の設定、評価の工夫

◎ 基本的に、授業を英語で！

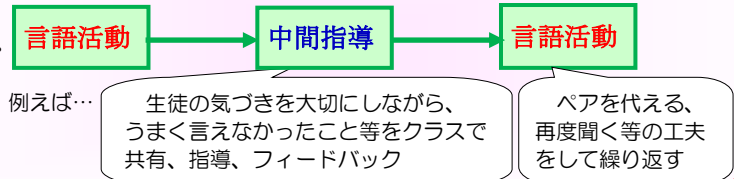
- ・あいさつ、指示、説明、発問、課題の提示等を英語で行い、英語で理解させる
- ・日本語を使う場面を精選する

◎ 考えや思いを伝え合う言語活動を！

- ・生徒の関心がある事柄や話題等を提示する
- ・言語活動の目的、場面、状況を明確にする
- ・学習した語彙や表現等を生徒に実際に活用させる
- ・生徒自身が考えたり自由に話したりする時間を設定する

◎ 言語活動を繰り返す！

- ・4技能（5領域）を関連づける



【IBAの活用】

3年生で実施した4技能型や、1年生及び2年生で実施した2技能型の結果を分析し、子どもたちの意欲向上や指導改善に活用しましょう。

今後も、現行の学習指導要領の趣旨に基づき、言語活動を通じた指導を充実させ、生徒が「使いながら英語を身に付けられる授業づくり」を進めましょう。

言語活動を充実させるために、例えば、「読むこと」においては、教科書等のまとまった英文を読む際に、必要な情報、概要及び要点を把握するといった活動等、「書くこと」においては、どのような状況で、誰に、何を伝えるのかを明らかにして英文を書く活動等、コミュニケーションを行う目的、場面、状況等を明確に設定しましょう。また、話したことについて書く、読んだり聞いたりしたことについて自分の考えを伝え合う等、複数の領域を関連づけた言語活動を行うことも大切です。

引き続き、指導改善及び指導の充実を図ることを通して、子どもたちの学習意欲と英語力の向上につなげていきましょう。

